

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(きずなユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和6年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の『尊厳の保障』『家庭的な雰囲気の提供』『安心・自立・自律』『絆』を念頭に置き、日々利用者が安心して『いい顔』で過ごして頂けるよう努めている。住み慣れた地域と環境が似ており、周りには田畑が見て取られる。荘の敷地にも畑を作り、色々な野菜などの収穫にも一緒に行っている。看護師も在中しており日々の健康管理、提携医との連携なども対応が早いことは、利用者の安全・安心であり家族の安心にもつながっている。イベントなども関連保育園の園児と一緒に行事など利用者の喜びに繋がっている。職員は利用者との交流を日々努め観察し、少しの変化も見逃さず健康管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念に基づき、毎月の目標を作成され、利用者の笑顔が日々見られるよう職員はケアに努めておられます。環境的には田畑が広がり、敷地内にも畑があり、収穫された野菜を使った献立も提供されています。利用者みなさんで切干大根、干し柿作りやおやつも一緒に作られ、行事食や特別食も提供され、食事が楽しめるよう工夫をされています。コロナが5類移行になり地域の保育園児との交流も再開され、楽しい時間を過ごされました。また、看護師も勤務されているので、日々の健康管理や協力医と連携され、利用者の安全・安心と家族の安心にもつながっています。タブレットを使った情報共有も進められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲げ、入職時に説明を受けている。家庭的な環境と地域住民と交流の下で生活していくことを念頭に職員全員の認識として、日々の介護活動に努めているが、全員がその本質を理解出来ていないように思われる。	理念・基本方針に基づいたケアが行えるよう毎月の目標を作られており、職員の思いや利用者との約束が実践できるよう努めておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスが5類になったことにより、後期は地域の保育園の園児たちとの交流を設ける事が出来た。その他保育園とのビデオレター等での交流も並行して繋がり継続に努めている。	コロナが5類になり久しぶりの保育園児とのクリスマス会での交流が行なわれ、利用者の楽しそうな笑顔が多く見られました。地域のコミュニティセンターとの交流の機会も継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ下の影響で、実習受け入れ等は中止となり、例年行う学生ボランティア等の受け入れも中止となる。入所相談、認知症、介護の電話相談は随時対応を行う。地域の子供達を招待し敬老会等を開催し、認知症の方と接する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度初めに年間スケジュールを計画し運営推進会議を開催。毎回運営状況の報告を行っている。コロナ下の時は状況報告書を配布していた。	コロナ5類移行に伴い、現在は対面開催され、ホームの現状報告が行われています。委員からの意見や情報を頂き、今後のホーム運営に活かされています。	運営推進会議の際に実施アのケア現場を見て頂き(例として昼食試食会、地域との災害時の連携体制)ご意見を伺うような機会を持たれる事も良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が出雲市市福祉保健課に運営推進会議の議事録を毎回提出し、顔なじみになるよう努めている。介護相談員の方が訪問され、入居者の方から聞き取った内容や気づきを報告して頂いている	管理者が主に市との連携を図っておられます。来年度の報酬改定についての情報を得ておられます。また、介護相談員の方が来られ、利用者からの意見の聞き取り、気づきを報告頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を全職員が理解し日々取り組んでいる。ユニット会議では色々な角度から意見交換し全員で身体拘束について話し合っている。日中の玄関の施錠等は行っていない、居室のセンサー等も転倒防止のケアの為に家族に了解を取り行われている。	身体拘束廃止委員会が3ヶ月に1回開かれ、検討され改善されています。身体拘束廃止については全職員で理解されています。利用者の安全確保のため家族に了解を得て、センサー等の利用をされています。日中玄関の施錠はされていません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関してユニット会議などで日常的に管理者と職員が共通の認識が出来るよう努めている。職員一人一人が高齢者虐待の正しい知識をもち日々ケアを実践出来るよう心掛けている。職員同士ケアに対する悩みも相談出来る様に心掛けている。	虐待防止委員会が3ヶ月に1回開かれています。毎月のユニット会議においても検討事例をあげ、話し合いを行い、適切なケアが行えるよう心掛けておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権や権利擁護を学ぶ機会は殆ど出ていない。、成年後見制度の必要な利用者が今年度はおられ、ケアマネ中心に理解に努めるよう心がけるが、その理解は周知出来ていない。今後市と協力しながら事業所内の実践に努めて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な時間をかけ、十分な説明と文書により同意と納得を得ている。解約時は退居後の生活支援もスムーズに移行できるよう連絡調整を伝えて、入所後起こりえる事に関しては事前に文書にて説明し、同意・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に本人・家族の意向や生活歴を把握して介護計画を作成している。入居時には主治医の希望を確認し在宅時の医療が継続できるよう行っている。当事業所の提携医との連携についても説明し希望時には変更を行う。緊急時は速やかに電話で報告し納得と安心を得るよう行っている。	利用者には日々の会話の中から意見・要望を聞かれています。家族にはケアプラン変更時には意見・要望を伺い、面会に来られた機会にも伺われています。毎月の請求時にはお手紙も同封されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はグループホーム内の職務が、日々職員の意見、提案を取り入れる事ができ、業務の細かい事や他部署との連携を円滑に行えるよう心掛けている。ユニット会議での意見を聞くよう心がけ、現状なども伝えている。	管理者はユニット会議にはできるだけ参加され、職員の意見を聞くようにされていますが、参加できない場合には、ユニットリーダーから職場改善等についての意見を聞き検討されています。	管理者が日々多忙なため職員からの声が届きにくいと感じられている方もあるようですので、ユニットリーダーとの連携を密にされ職員からの意見がよりよく伝わる工夫に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の希望と負担を考慮した勤務を組み、日々の関りで実績や努力を認め、やりがいに繋がるよう努めている。現在少し職員不足ではあるが時間外手当によりカバーしているのが現状である。常に人材採用については取り組んでいる。必要に応じて個別に相談に応じる時間も設けている。	人材確保対策として次年度より外国人技能実習生を受入れられます。人員不足な点は時間外手当を出されています。管理者は必要に応じて個別に職員と話す時間を持たれています。	外国からの技能実習生のOJTの仕組みも現場職員は不安に感じられている面もあるようです。これからも職員のやりがいにつながるような職場環境の整備に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員個々の力量把握は困難だが大きな心で見守ってくれる。現在コロナ下で法人外での研修機会は困難だが、管理者はズームなどを利用しての研修参加の機会を設ける様努めている。リーダー等中心に日々行うように努めている。	コロナ禍の影響もあり、今年度もオンラインでの研修が中心に行われていました。また、資格取得に向けての研修に参加できるようシフト変更が行われています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの密な交流はないが、隣接するなごみとの交流はある。職員の中には他の施設との交流は持つよう努力しているがコロナ下の影響で、外部との交流や研修など職員もその機会が持てていない。コロナが治まった今後機会を広げていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よく話を聴く事、安心して利用して頂けるよう相手を理解する事に努めている。新入居者には在宅での生活と変化を最小限に出来るよう、出来る限りの要望を受け入れるように心掛け、信頼関係の構築を優先に支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よく話を聴き安心して利用できるよう努め、出来るだけ要望を受け入れ対応を行っている。家族には自分がしたい事、できる事を共に考え一緒に利用者を支える事を理解して頂いている。日々の状況は毎月の手紙や面会時に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居は家族にとって一つの手段であって、迷っている家族には必要な情報を提供し利用者にとって一番良い方法を十分に考える時間を持ってもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性である「入居者から学び共に過ごしていく」事を職員全員が実践出来るよう努めている。入居者のADL変化に寄り添い個々の「できる事」を大切にし、過度のケアにならないよう努めている。自然と役割ができ家事なども分担しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙、面会時などで家族とのコミュニケーションを取る様に努めている。またグループホーム入居により家族の介護の役割が無くなったのではなく共に入居者を支えていく事を伝え、協力関係を築き安心して頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の希望を聞き可能な限り外出や外泊、面会を支援し、法事などに於いてもコロナ下の時でも少人数・県外の方は居ない等確認し行っていた。電話の取り次ぎや、現在の面会は居室で一緒に過ごして頂いている、手紙の内容の拡充(写真を多用)して対応している。	家族との面会は居室で行えるようになってい ます。本人や家族からの希望を聞き、可能な場合はお墓参りや法事にも出かけられていました。つながりが継続できるよう支援されています。	馴染みの関係継続があった場合には、そのことについて話を頂き、回想法につなげる工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在入居されている利用者の関係性や、体調等を十分考慮し利用者同士が支え合う場面を大切にしている。会話や歌、一緒に共同製作する壁画など行っている。意思疎通が難しい利用者も一緒に活動の場に入って頂き、孤独感が出ないように行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の理由は主に入院や転所である。管理者が家族と引き続きコミュニケーションを図り、今後の生活や介護の相談に乗り不安を取り除けるように努める様に心がけている。今年度も特養への(他機関)転所があり、管理者やケアマネを中心に支援に務めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聴き、観察し取り組む様に行っている。自分本位にならないよう必ず利用者の立場に立って考え認知症を理解し、利用者の感情に寄り添う事が出来るよう行動する。職員、管理者と相談し情報交換し助言し、本人らしい生活出来るように努めている。	毎日の何げない会話の中から本人の思いや意向が聞き取れるように心掛けておられます。希望や意向は記録し、職員間で情報共有されています。	本人のやりたいこと目標につながる意向把握に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本や家族のほか利用者を支える周囲の人、ケアマネ、利用していたサービス事業所等からの情報収集に努める。その情報をタブレットに記録し職員がいつでも共有し活用できるようにする。本人との日常会話からそれまでの生活歴や思いなどを聞く様に心がける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察とタブレット記録、申し送り等で把握し、ケアカンファレンスでの総合的なアセスメントに役立てる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のコミュニケーションで本人の気持ち、希望を確認する様に努め、電話や面会時で家族の思いを汲み取り3ヶ月に1度アプランを見直す。ケアプランに沿って日々過ごしているかを毎日確認している。独りよがりなケアにならないよう注意し職員間で情報共有を行う。	利用者・家族等の意向等も取り入れつつ3ヶ月に1度のケアプラン評価・見直しが行われており、課題の検討をされています。時には法人内のリハ職から運動機能や栄養士からの栄養面での意見も聞かれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体温や血圧の変動が一目で分かる様にタブレットを活用し、日々の状態も記録し職員間で共有できるように行っている。	タブレット導入されたことにより体温・血圧の変動も一目で分かるようになり、記録に時間の短縮ができ、情報共有もしやすくなりました。気になる事や変化があればタブレットに残されています。今後ケア記録ソフトも導入予定です。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に合わせた行事や外出を計画している。コロナ5類に伴い保育園児とのイベントの交流も行われた。利用者の安全を基本に、一人一人の考えを考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族のほか、利用者を支える周囲の人から情報収集し、入居する事で関係が途切れないよう、できるだけ継続できるよう、面会や電話の取り次ぎを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認し在宅時の医療が継続できるよう行っている。当事業所の提携医との連携についても説明し希望時には変更を行う。緊急時は速やかに電話で報告し納得と安心を得るよう行っている。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医として頂いています。協力医は往診がありますが、往診の無いかかりつけ医を選択される場合には、家族による受診を基本としておられます。歯科医も個々で受診されています。家族と受診される場合には本人の状態を伝え、受診後には話を聞かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々共に勤めており即座に対応できる。また協力病院も近隣にあり、夜間・休日も相談できる。看護師が同じ職場にいることは利用者、家族、職員にとっても安心である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時情報交換し良好な関係を築き、早期退院に努めている。入院時は家族からも情報を得よう努めている。利用者個人の情報提供書を月に1度担当が見直している。	入院時には地域連携室と連絡を取り、ソーシャルワーカーと相談しながら、早期退院を目指しておられます。入院時には看護サマリーを病院に提出され、退院前にはカンファレンスがあり、退院後の生活の注意点等伝えて頂いています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「重度化した場合の対応」を文書で説明、同意を得ることにより、希望の終末期の在り方を確認するようにしている。契約時は「考えられない」との事が多いが、本人の変化、や事業所に出る事、出来ない事、理解の確認等を行うように心掛けている。必要に応じてかかりつけ医から説明を受ける場を調整している。	契約時に終末期の対応について説明が行われ同意も得られています。本人の体調変化等、重度化された場合には、家族に対して、ホームでできること、できないことを理解して頂き、かかりつけ医からの説明頂き、話し合いを行い最終的な方針が決定されます。看取り対応も行っておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医やかかりつけ医との連携を職員に共通認識協力関係にある。事故やヒヤリハット事例を細目に上げることを通して全職員に伝達・教育し、初期対応力を身につけるよう努めている。応急救護の方法は現在研修が出来ておらず、以前受けた知識に留まっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震等緊急事態発生時の連絡網を作り、会社より近い人から協力体制をとっている。避難訓練でも災害対策の研修も行う事で実践力を身に付ける。施設内には4部署の福祉施設があり法人全体の連絡・協力体制がある為、近隣の協力を得る可能性は少ない。	年2回の避難訓練が行われており、内1回は消防署も来られる総合訓練が行われています。連絡する法人4施設全体の連絡・協力体制が構築され、災害時発生時のホーム職員の連絡網も作成され、備蓄も用意しておられます。BCP(事業継続計画)は今年度末に完成するよう策定中です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各自その大切さを自覚し、職員同士で注意しあう事が出来る様に努めている。入居者には優しく思いやりを持った丁寧な言葉使いを職員全員で心掛け実践している。馴れ親しさの間で悩む場面もあるが、尊厳保持を優先して対応を行う。	トイレや入浴時には業務マニュアルに沿った対応が行われており、配慮した言葉かけができるよう意識されています。ユニット会議でも定期的に言葉遣いについて話し合われており、親しくなると馴れ馴れしい言葉遣いになる場面があるため、利用者の尊厳が保持できるよう職員同士気を付けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしたいか」を必ず聞くよう努める。判断が難しい入居者には自己決定しやすい質問や言葉を選び自分で考える事、決める事、納得する事を大切にしている。一人ひとりで対応する時間には色々相手から聞き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気分や体調、など共同生活が円滑にできるよう行動、日課を考慮し、個別対応に心がけている。作業やレクリエーションなど体力的なども考慮し、本人の好みにより全員一緒ではなくても色々行えるように考慮している。部屋でゆっくり過ごして頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容(洗顔、整髪、髭剃り)支援の他、洋服やおしゃれに関して個々の担当が家族と相談しながら支援を行っている。出張理美容の利用を行っている。ただし中々馴染みの美容院に行くことは難しい。季節毎に衣替えを行い、本人に合ったものを準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好み、体調、アレルギーを考慮し、体調に合わせて刻みやトロミを付けて対応している。手作りおやつもっており好評である。利用者の力に応じテーブル拭き、食器洗い、野菜切り、盛付け等共に行っている。行事などは特別食やおやつを用意したりもする。	メインのメニューだけ隣接する特養から提供されますが、その他についてはホーム調理しておられます。個々の能力に応じてテーブル拭き、食器洗い、食事作りの手伝いをして頂いておられます。切干大根、干し柿作りや手作りおやつは利用者みなさん作っておられます。畑もあり、収穫された季節の野菜を取り入れた献立が提供されたり、行事食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成し栄養バランスは良好で、おやつも生活の楽しみで定着している。食事摂取量は随時タブレットに入力し、体調とあわせ経過観察できる。水分摂取は食事以外にも機会をつかって行っている。他個人の訴えに対しても柔軟に対応している。食事が取れない時にはエンシュア等も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、間食前の嗽や食後の歯磨きを勧め、声掛けにて行って頂いている。義歯使用者は就寝前にポリドントなどを使用し衛生面も整えている。自分で出来ない利用者には介助にて行っている。	食前のうがいや食後に口腔ケアは行われています。個々に応じて、声掛け、歯磨きの介助が行われています。義歯は夜間に洗浄液に入れ清潔保持がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。利用者の言葉や行動を察知し誘導確認を行っている。タブレットを利用し個々の排泄パターンの把握に努めている。夜間も個々人の状況を把握しながら声掛けを行っている。オムツ類は個々の状況に合わせて用意している。	最期までトイレで排泄して頂けるようケアされています。タブレットに記録を残し、個々の排泄パターンを把握され、誘導や声掛け、介助などの対応が行われています。夜間失敗がないように定時にトイレ誘導される利用者もあります。全居室にトイレ付きとなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動等を生活の中に整え、水分摂取をすすめると共に、排便-3日目で個別に便秘薬の使用調整を行っている。また日々体操を行う事で運動不足の解消をしている。気候や体調面を考慮しながら荘の周りを散歩を促している。起床時には牛乳を提供し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日対応している。夜入浴を断られる事が多くなり、人員配置や安全性を考慮しながら午前中、午後に入られる。時には夜入浴は1人を基本とし週2回の入浴は行っている。入浴介助者も利用者の羞恥心など考慮し臨機応変に変更している。しょうぶ湯など季節を感じて頂ける行事も行っている。	入浴は基本週2回は入って頂けるようにしております。入浴時間も利用者の希望に合わせて対応されます。夜間に入りたいと希望される方には夕食後入られる対応も行われています。季節を感じて頂けるような菖蒲湯等も行ってまいります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は早く寝床に入りたい、寂しいので居室に行きたくない等は個別に対応している。眠前薬が必要などは医師に相談し対応する。体力面を考慮し昼食後少しの間昼寝を取って頂く。昼夜逆転にならないよう日中はレクや体操など行い過ぎて頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員全員、薬の理解ができる様に心がけ、解らない時は看護師に教えて頂いている。気になる事があれば職員から看護師に伝え主治医に伺っている。誤薬などない様に職員2人で確認を行い服薬して頂いている。	過剰摂取、誤薬がないようにダブルチェックが行われています。薬の内容等に変更があった場合にはタブレットに入力され情報共有を行い、状態変化に注意されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの習慣の情報収集し、その人らしい役割と楽しみを見つけて支援している。作業が好き、花が好き、歌が好き等声掛けも変えている。喫茶の飲み物等も各種用意し、一人ひとりの希望に沿って提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮し散歩、買い物、美容院等に個別に出かけていたが、職員体制や気候にもよるが中々来ていないのが現状である。荘の周りの散歩や、敷地内の畑での収穫などは行っている。ドライブも行うが体調面などもあり全員での外出は来ていない。	コロナ5類に伴い、そろそろ買物と一緒に出かけられる予定です。お天気のいい日にはホームの周りを散歩されたり、畑に行かれる方もあります。家族と外出される方はあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人はいないが、事務所で預かり必要な時に出すようにしている。一緒に買い物に出かけることが現在は来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて事務所の電話を使用している。家族からの電話の取り次ぎも行ってはいたが、面会が再開し電話のやり取りはほぼなくなっている。(面会に来られるため)家族からの手紙を渡すと喜ばれ、何度も読み返されている。利用者には暑中見舞い、年賀状など直筆で書いて頂き行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔と明るさ季節感を心がけ壁には入居者の作品を貼り絵等、季節の物を展示している。リビングには加湿器を置いて対応している。時にはオルゴールの曲、童謡などを流すことで落ち着いた空間を作ったり、歌で皆さん楽しく穏やかにリビングで過ごされている。	換気にも気を付け、温度管理も行われています。過度な装飾はなく、生活の場に相応しい季節感のある装飾が行われています。最近YouTubuの動画配信される中から好みの物も鑑賞できるよう対応されています。ソファでのんびりと過ごされる方もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルが3台あり人間関係、認知度や介護の度合いを考慮し席を決めている。共同作業やレクレーションをして過ごす。作業の都合に合わせてその都度対応している。ソファでゆっくりテレビを見られたりと自由に座る事ができる。窓側には椅子を置き外を眺めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は動かれるのに危険が無い様にすっきりさせている。テレビ、家族の写真、多くの小物を飾る等様々な個々の尊重をしている。	使い慣れた物を持って来て頂かれています。動きやすい動線になるようベッドの位置やエアコンの風向きも調整されています。利用者が自分の部屋として過ごしやすいよう見守りながら、生活の支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり あ	バリアフリーで要所に手すりが有る。浴槽内は滑り止めマット利用している。居室を分かりやすく表示し見やすい時計や大きなカレンダーを置き、自分で気付けるよう工夫している。導線に物を置かないようにし、利用者が置いた場合も片付けるようにしている。		